

第2学年3組 国語科学習指導案

1 単元名・教材名 かたかなの ひろば

2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、一年次の「かたかなを みつけよう」で初めて片仮名を学習している。そこで、片仮名で書く言葉と平仮名で書く言葉があることを知り、濁音や半濁音、促音についても、読み方と書き方を学習している。またその後も「くじらぐも」や「日づけと よう日」などの教材で、継続的に片仮名を学んでおり、長音・拗音を含め、ほとんどの片仮名は理解できている。しかし、実際に文中で使えるようにする、ということについては課題が残っている。

本教材は、教科書の絵の中の言葉を使って文章を考える単元であり、動物たちが運動をしている絵の中に片仮名が書いてある。

本単元を指導するにあたって、小学校学習指導要領の第1学年及び第2学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項「ウ 文字に関する事項」の「ア 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと」を中心に指導を行っていく。そのために、「片仮名の言葉を使って文を書く」という単元を貫く言語活動を設定する。その言語活動を遂行するために、共通教材「かたかなの ひろば」の学習を通して、片仮名の読み方や書き方、片仮名を書くときの決まり、主語と述語の関係などから、片仮名を使った文を考えて正しく書けるように指導していく。それは、片仮名を使った正しい文を書くことで、より多くの文章を書くことができるからである。そして単元の終末では、共通教材で学習した決まりなどを生かして、教科書に載っているもの以外の片仮名を使って文を書くことができるようにする。

本時では、「かたかなのことばをつかって、文を書こう。」という学習課題を立て、解決を図っていく。導入では、教科書の絵を見ながら、そして片仮名の決まりを意識しながら、絵に当てはまる片仮名を考える。そして、それらの片仮名を使って、主語と述語に気を付けながら文を作るようにする。こうすることで、児童が文章を書くときに、片仮名の決まりに注意して正しく書けるようになることに気付けるようにする。

本教材の指導を通して、片仮名を正しく使いながら文章を書くことができるようになると考えている。

3 単元の目標

(1) 片仮名を読んだり、書いたりして、「何が」「どうする」が整った文を書くことができる。

(書くこと)

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
--	--------------------	--------	-----------------------

準 単 元 の 評 価 規 準	・提示された片仮名を読み、それが示すものを、楽しみながら絵の中から探そうとしている。	・主語と述語の整った文を書いている。	・片仮名を正しく使っている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①教科書の絵や片仮名を使って文を作ろうとしている。	①主語と述語を意識して文を作っている。	①長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記する時の決まりを理解している。 ②片仮名の読み方や書き方に注意している。

5 指導と評価の計画（全2時間扱い） 本時1 / 2時

時	主 な 学 習 活 動	学 習 内 容	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法
①	○教科書に載っている片仮名で片仮名の決まりを理解し、文を作る。	○想像を基に話をすること ○長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記する時の決まり	アの① オの① ・机間巡視による考察 ・ワークシートやノートによる考察
2	○教科書以外の片仮名を使って文章を書く。	○文章の書き方	ウの① オの② ・発表の内容や態度の考察 ・ノートによる考察

6 本時の学習指導（本時1 / 2時）

（1）目 標

○長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記するときの決まりを確かめながら、動物たちの行動や様子を文で書くことができる。

（2）評価規準（1時間の授業に即した具体的なもの）

ア 関心・意欲・態度	オ 言語についての知識・理解・技能
①教科書の絵や片仮名を使って文を作ろうとしている。	①長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記する時の決まりを理解している。

(3) 展開 (○は指導上の留意点 ----- 内は評価を表す)

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 と 評 価 の 創 意 工 夫	時 間
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> かたかなのことばをつかって、文を書こう。 </div>	・本時の学習課題	○導入は、教室にあるもので、片仮名で書く物はどれかということ聞き、片仮名についての問題意識を高める。	3 分
2 穴に当てはまる片仮名を書く。 3 答え合わせをする。 〈出させたい内容〉 ・シャワー ・サッカー ・ジャンプ ・ダンス ・スキップ	・片仮名の書き方 ・片仮名の決まり ◆長音 (×シャワア) ◆促音 (×サカー) ◆拗音 (×ジャンプ) ◆濁音 (×タンス) ◆半濁音 (×スキップ) ・教科書の絵や片仮名を使った文	○5箇所穴埋めにしてある教科書のコピー (ワークシート) を配り、自分で埋めてもらう。その際、自分の教科書も穴埋めにしておき、書画カメラで写す。 ○発表するときに自分のワークシートを前に持ってきてもらい、書画カメラで見せる。その時に、他の答えが見えないようにアップにしてから写す。 ○答えを確認したら、黒板にも書き、読み方や書き方を確認する。「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」、「ヌ」と「ス」など ○教科書の絵に合う、片仮名を使った文を書いてもらう。	5 分 10 分
4 教科書の絵に沿った文を書く。	◆単語はいくつ使っても良い。	○主語と述語に気を付けて書けるように指導する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>アの①教科書の絵や片仮名を使って文を作ろうとしている。</p> <p>オの①長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記する時の決まりを理解している。</p> <p style="text-align: right;">(机間指導の考察)</p> <p style="text-align: right;">(ワークシートやノートによる考察)</p> <p>長音、促音、拗音、濁音、半濁音を片仮名で表記する時の決まりを理解しながら、絵に即して文を書けている姿が見られれば、「おおむね満足できる状況である」と判断することができる。</p> </div>	15 分

<p>5 考えた文を発表する。</p> <p>6 本時のまとめを行う。</p>	<p>《手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の絵に沿いながら正しい片仮名を使って文を書いている児童には他にも文が作られるか、さらに多くの単語を使うことができるように助言する。 ・教科書の絵に沿いながら正しい片仮名を使って文を書けていない児童には、板書や今までの話を振り返るように助言し、児童と共に文を考えるようにする。 <p>・絵に沿って止しく書けていること</p> <p>・本時のまとめ</p>	<p>○大きく分けて場面3つに1文ずつ発表してもらおう。(板書)</p> <p>○隣の人と見せ合い、何か間違っているところがあれば指摘し合うように指導する。</p> <p>○本時の振り返りを行い、次時の予告をする。その時にワークシートをノートに貼り付けておいてもらう。</p>	<p>9'</p> <p>3'</p>
---	--	--	---------------------

次時の学習内容	○ 教科書以外の片仮名を使う文
---------	-----------------

7 備考 在籍児童数 35名
板書計画・ワークシート

五月十六日

「かたかなのひろば」

かたかなのことばをつかって文を書こう。

・ シャワ ① ツヤワー

・ サツカー ジャッパ

・ ジャンプ ダンヌ

・ タンス スキップ

〈文を書こう〉

- ・ぶたがシャワーをあびる。
- ・さるたちがサツカーをしている。
- ・うさぎがスキップをする。

